

小論文の書き方とコツ

I. 書き方

1. 構成

(1) 起承転結という展開を考える。

①起：問題をはっきりと文章で示す。問題をいくつかに分けて示す。

②承：とりあえずの答え、一般的な答えを書く。それは三角だ。

③転：別の観点から考えて、別の答えを示す。いやそれは四角だ。

④結：違った答えを統一的に示す。まとめる。落ちをつける。上から見ると三角で、横から見ると四角だ。ということは、_____だという結論になる。→読んだ人にハッとさせ納得させることが大切。

2. 例題

(1) 「保育者が持つべき心構えとは」というテーマについて 600 字以内で述べなさい。

①起

保育者が持つべき心構えとは何であろうか。保育者とはどのような人を指すのであろうか。保育者とは保育を職業とする専門家を指す。心構えとはどういう意味であろうか。心構えとは保育する上で普段気を付けるべき大切なことであると思う。

②承

保育士や幼稚園教諭が保育する上で気を付けるべき大切なことは、環境に配慮することである。例えばこういうことである。

③転

私は保育実習や幼稚園実習でこのようなことを経験した。そのことを通して、幼児の個性を理解することが大切であると気付いた。

④結

保育者が持つべき心構えとして大切なことは、環境に配慮するだけでなく、その子の個性にも配慮することである。それこそが幼児の生き生きとした活動を続けさせ、発達を促進するからである。

II. 注意点 (コツ)

(1) 段落を区切る。ひとマス空けて書いていくと読む人が読みやすい。1 段落の長さは大体 100~150 字ぐらいにする。一つの段落で言いたいことは一つにする。

(2) 主語と述語のつながりをはっきりさせる。相手が理解しやすいように書く。

(3) 「よって」(口語ではであるから) や、「しかし」等の接続詞を適切に使う。

(4) 添削してもらってから、書き直す。

(5) 誤字脱字は減点されるので気を付ける。試験の最後に見直すことが大切。